

平成25年11月20日

石巻市議会議長 阿部 欽一郎 殿

会 派 名 フロンティア石巻
代表者名 森山 行輝 ㊞

調査報告書

調査した概要は次のとおりであります。

記

- 1 調査者氏名 森山行輝、長倉利一
- 2 調査期間 平成25年11月 5日から
平成25年11月 8日まで 4日間

3 調査地及び調査内容

- (1) 沖縄県浦添市
地域通貨「察度」の取り組みについて
- (2) 沖縄県沖縄市
こどものまち推進事業について

4 目 的

(1) 沖縄県浦添市

地域通貨「察度」の取り組みについて

厳しくなる地方自治体の財政状況下にあっても、旺盛な行政サービスに
応えるため、単に行政のみが事業を実施するのではなく、市民の協力や参
加を求める機会は確実に増加し、市民・行政・事業所の協働による仕組
みづくりが求められている。浦添市では、市民・行政・事業所が持てる力
を有効に提供しあうことで、新しい「まちづくり」のスタイルを確立し、平
成18年12月から2カ月間、(財)地方自治情報センターの助成を受けて実施
した実証実験を検証した後、より多くの市民が気軽にまちづくりに参加で
きるためのインセンティブとして、地域通貨モデルシステムを活用した地
域通貨「察度」を適用し、対象範囲をさまざまな事業へ拡大して、「察度」
の普及啓発と地域活性化に取り組んでいる。

本市においても、市民・行政・事業所の協働による体制づくりは必要
なものとして認識しているが、具現化することは非常に難しいものであるこ
とから、先進地における官民連携の取り組みについて学び、今後の事業
推進の参考とする。

(2) 沖縄県沖縄市

こどものまち推進事業について

沖縄市では、東門美津子市長が沖縄こどもの国(動物園とミュージアム)、こどものまち推進プラン、こどものまち宣言など、多くのこども政策に取り組んでおり、こどもの声を活かした政策を進めている。また、庁舎内においても、こどものまち推進部をつくるなど、庁内のこども政策の一元化に取り組んでいる。

本市においても、来年1月にオープンする子どもセンターをはじめ、放課後児童クラブの対象学年拡充、ファミリーサポートセンター事業など、こどもに関する政策にも各方面から着手しているが、先進地の取り組みを学び、今後の事業推進の参考とする。

5 調査概要

(1) 沖縄県浦添市

地域通貨「察度」の取り組みについて

浦添市の地域通貨「察度」は、新しい“まちづくり”の形として、「市民、行政、事業所の協働のまちづくり」を推進するため、それらの持つ力を有効に提供しあうことで目的達成を目指している。

この名称の「察度」ですが、14世紀に実在した国王であり、琉球王朝時代、明などとの交易を積極的に行い、国を発展させた事から名づけられた。

平成18年6月、総務省の外郭団体である(財)地方自治情報センターが公募した「地域通貨モデルシステムの開発実証事業」に浦添市の事業である男女共同参画事業「メンズキッチンデー」をチームとして応募、平成18年6月末に採択され実証実験を実施し、今日に至っている。

浦添市が考える地域通貨とは「通貨」という表現はするが、お互いをもつ感謝の「こころ」をカタチにする表現手段としており、様々なボランティア活動やイベントに参加した市民にその内容に応じて、「察度」が発行される。「察度」の単位は「ポイント」とし、1ポイント=1円を目安として運用され、利用券は100察度限定である。各事業の主催者がその内容に応じて、市の方に発見手続きを取り、各参加者に対して「察度」を付与する。

受け取った「察度」は、①対象グッズとポイント交換、②利用券と交換しサービス利用、③相互交換として活用できる。「察度」を使える事業所はまちづくりスポンサーとして登録され、その数は45事業所ある。

(2) 沖縄県沖縄市

こどものまち推進事業について

沖縄市は、15歳未満の人口割合が全国一高い市(平成17年国勢調査20.5%)です。こどもたちはまちの宝であり、こどもたちが多いということは、沖縄市の輝かしい未来への兆しであるとともに、誇るべき特性です。

このことを受けて沖縄市では、沖縄市こどもまちづくりに平成19年度から着手し、沖縄市活性化100人委員会の中に「こどものまち宣言部会」を設け、大人チーム11名、こどもチーム26名を公募し、「こどものまち宣言」を提言し、平成20年に議会の議決を受けていました。それとともに、同年「沖縄市こどものまち推進アクションプログラム」の推進事

業として「人づくり」「場づくり」「ネットワークづくり」について3年間事業を展開しました。

その活動により、平成24年度にはアクションプログラム策定となり「こども文化を育む」「安心して子育てができる環境をつくる」「個性や可能性を育む教育を推進する」という考え方で、こどもたちの主体的な活動を応援し、こどもたちが夢に向かって元気にたくましく育つ環境をつくるこどものまち推進事業がこの平成25年から平成27年の2年間で実施のスタートとなっております。

なお、これらの事業推進にあたり、行政の機構改革が成され、「こどものまち推進部」が新たに発足し、保育所と幼稚園がこの課の傘下となっており、こどもたちに関することが一つの部にまとめて、事業推進が成されていきました。

6 所 感

(1) 沖縄県浦添市

各自治体において、今後のまちづくりをどう展開していくのか思慮しており、当市においても、あの東日本大震災を経験し、まち全体がズタズタに破壊された中で、復旧・復興を成し遂げなければならないという、二重苦、三重苦の厳しい環境下の中での新しい“まちづくり”を推し進めなければなりません。そういう中でやはり、市民、行政、事業所がしっかりと連携をし、協働のまちづくりを実現することが求められております。浦添市で取り組んでいる地域通貨「察度」がどんな役割を果たし、市政に、地域に貢献しているのか視察をしてまいりました。

この取り組みには、浦添市においても、まちづくり、人づくり等に関して、いろいろな研修会、セミナー等を開催しても、なかなか参加者が少なく、事業の当初の目標をクリアできない、突き詰めれば協働のまちづくりの理念さえも失うという現状から脱すべく、手がけた事業である。

市の予算措置がなく、担当者が1人というこの事業をいかに有効に成し遂げるかというアイデアもさすがであり、また、この事業展開において各種の研修会やセミナーあるいはボランティア活動の参加者が「察度」導入前よりも、大幅に増えていた実績を見させていただいて感心させられました。

(2) 沖縄県沖縄市

国をあるいは地域の将来を担うこどもたちは「まちの宝」であります。いかにこどもたちを健全に育成できるかは、まちの形成をも左右するような重要な課題でもあります。その事は各々の自治体(当局も含めて)では、十分に理解しつつも、ではその為どのような具体的な施策を展開しているのかというと、それはなかなか国に見えてこないというのが実態ではないでしょうか。

今回の沖縄市での「こどものまち推進事業」における内容は、これまで私たちが懸念していた様々な疑問を大いに払拭するに値する事業でした。それは、まず、米軍基地の“門前町”として栄えてきて、とりもなおさず15歳未満の年少人口の割合が平成17年度で20.5%と全国一を誇っており、平成24年度でも19.3%と高いこと、「こどものまち宣言」を作って、なおかつ、沖縄県出身のシンガーソングライターの Kiroro (キロロ) に作曲依頼し、

歌としたことで、大人のための「こども学講座」を開設し、こどもと向き合うことのできる大人の養成を目指していました。推進事業は平成 25 年度から平成 27 年度までの 2 カ年で行い、その報告が楽しみです。取組む姿勢に熱意が感じられます。

どこの自治体でも組織は縦割りで、融通がきかないのが常ですが、沖縄市ではそのタブーまで破って、保育所と幼稚園を一緒に管理する新しい「こどものまち推進部」を平成 24 年度に新設して、この構想を把握していく決意が感じられました。

7 調査による石巻市への政策提言等について

(1) 沖縄県浦添市

浦添市の地域通貨「察度」誕生には国の事業「地域通貨モデルシステムの開発実証事業」に応募したことから実現した事業ですが、これは元々「察度」として応募したのではなく、浦添市独自の特徴的な事業である男女共同参画事業「メンズキッチンデー」をテーマとして応募し、合格したものである。

この「メンズキッチンデー」とは「男子厨房に入るべし」という事業で、毎週水曜日に大人の男子が厨房に入って、料理をするというものであった。これに、住基カードの中にポイントを貯めておく機能があり、この機能と通貨ポイントを入れて活用できないかという試みもあって、仕組みができたという説明でした。

この「察度」に市の予算は「0（ゼロ）」であり、担当者も 1 人である。例えば、商店会商工会議所からの支援取り付けもこれからですし、まだまだ改善すべき点も多くあり、これからの事業促進も興味があるところですが、何はともあれ、このような国の事業に応募し、様々な調査等が国の予算でできたという事は参考にしていただきたいものです。

また、この事業に感心を持った浦添商業高校情報処理科では、市役所と連携し、3 年生の授業で、この「察度」が使える店舗のホームページを作成し、店主へのインタビューや商品の写真撮影だけではなく、店舗への連絡や日程調整も生徒が行うということで専門的な技術以上に対人関係や社会でのマナーも学ぶことができることは、生徒にとってメリットは大きいとのこと。いろいろと各方面への広がりを感じられ、事業の着手により成果が見えてきている事に注目すべきでしょう。

(2) 沖縄県沖縄市

未来を担うこどもたちがまちにあふれ、そして、活発に遊び、元気な笑顔で毎日が過ごせるのは、環境が整備されれば、そのまちの将来には夢も希望も見出せます。

しかし、一方では、いじめや引きこもり、児童虐待など今日のこどもを取り巻く社会環境は、極めて深刻で厳しいものがあることは当市も例外ではありません。このような現状を打開するためには、こどものためのまちを掲げ、市民の想いを一つに結集して、市民と行政が協働して理想を実現するということが必要となってきます。「こどものまち」とは、こどもに優しいまちであり、こどもたち一人ひとりが今を輝いて幸せに生きることを応援するまちです。

沖縄市街地活性化 100 人委員会の中に、きちんと「こどものまち」を共に考える場として「こどものまち宣言部会」を設置し、当事者であること

もの声をしっかりと聴くという姿勢、きちんとその声に応えていくことが重要だとの認識から位置づけております。

そして、何よりも感心したのは、それら施策を具現化すべく、こどものまち推進部を新設し、保育所、幼稚園を一つの部に管理をまとめ、施策の推進をやりやすくする為の改革まで行ったとのことでもあります。

このように前向きに取り組めば、やればできるのですから、教育委員会だ、福祉部だ、という考え方を改めて、今、当市のこどもたちにどのような支援が必要なのかということで、取り組まれることを当市の担当者に強く進言したいものです。

8 調査経費

203,920 円

9 添付書類

別添資料のとおり